

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 2月 17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200635		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑 江波气象台入口		
所在地	〒730-0834 広島市中区江波二本松2丁目10-22 TEL 082-295-5575		
自己評価作成日	令和5年1月11日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200635-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200635-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年2月3日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ご本人様やご家族の要望に沿ったケア・身体機能に応じたケア・笑顔に繋がるケアを職員間で統一し実践するようにしています。  
食事はグループホーム内ですべて手作りをし、お誕生日などはご本人のお好きな物を提供しています。また、キッチンからの匂いや音などから、毎回の食事を楽しみにして頂く事も大切にしています。  
当グループホームは、江波山の麓に位置し、春は桜・秋は紅葉と季節を感じる事が出来る様な生活をして頂いており、特にコロナ禍のなかでは外出が出来ない分、ホーム内にある中庭で季節を感じていただける工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームほのぼの苑江波气象台入口の特徴的な取り組みは、災害に備える体制づくりと、事業所の立地や、設備を活かして利用者の生活に彩を加えている点である。運営母体の法人が主体となって、防災への取り組みにこだわり、夜間勤務する職員は全員、防火管理者の資格を有しており、事業所では夜間配置される全職員を対象として日時調整を行い、避難救出訓練を実施している。また、水害を想定して救命胴衣の着脱訓練を実施し、利用者ごとに介助の有無や程度も把握している。次に、事業所の周辺には山や公園があり、食堂から桜の花を鑑賞することができ、回廊型の中庭は、紫陽花や水仙、ねぎなどが植えられ、季節を感じながら外気浴を行ったり、育てた野菜を食事に取り入れ、利用者の生活を豊かにする取り組みを行っている。

自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼にて理念を復唱し、覚えて貰い、日々の仕事に反映出来るようにしている。	事業所の理念は、開設時に地域密着型サービスの意義を考えながら、開設当時の職員意見を集約してつくられている。職員が年1回個人目標を立てる際には、管理者から助言を行い、日々の業務や目標が理念に繋がるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入っていて、慰霊祭やお祭り等に参加され、地域との交流を楽しんでおられたが、慰霊祭もコロナの感染予防のため職員のみで参加していて、お祭りは中止のお知らせが届いた。	地域の情報は、町内会からのお知らせで得ることができ、事業所内の利用者の様子は、町内会長をはじめ、地域の関係者に事業所通信を配布することで情報交換を行っている。利用者と職員が散歩に出た際に、地域の方と挨拶を交わしたり、地域の猫を話題にして会話をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々が相談に来られると一つ一つお答えして、見学したい方には外からと中庭に入って頂いて見て頂いている。今年にはほのぼの苑全体で集中して相談や見学出来る期間を設ける事が多の方に認知症の人の理解や支援の方法をお伝えしていきたいです。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ過で運営推進会議は施設では行えていません。書面を通して苑の様子を地域の方やご家族様にお示しして、意見や感想を聞かせて頂き、実践している。	コロナ禍での運営推進会議は、町内会長や地域包括支援センター、全利用者の家族へ書類送付し、返信で意見を聴取している。会議内の意見から、利用者が外気浴を行う機会や、食事に果物やデザートを提供する機会を増やし、サービスの向上に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	コロナ過で運営推進会議は施設では行えていません。書面を通して苑の様子を地域包括支援センターの方々にお示しして、意見を聞かせて頂き、支援に活かしている。	運営推進会議の開催状況報告は、担当課に郵送している。主に市町の担当者との連絡は、本社の介護事業部が行っており、必要な情報は本社から事業所事務員を経由して管理者に伝えられる。指定更新に必要な市が主催する研修や集団指導に職員が参加している。	

自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修は適時行い、禁止行為を職員に周知している。玄関の施錠は危険回避のため行っているが、外出は職員がご家族の付き添いにて行っている。	事業所を代表して外部研修を受講した場合は、研修資料を事業所内で回覧し、情報共有を行っている。スタッフ会議では、身体拘束のグレーゾーンについて意見交換を実施し、代替となる伝え方なども話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の研修は適時行い、禁止行為をスタッフに周知している。虐待の芽チェックリストを使用して、虐待を見過ごさないように留意している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員研修会を行い、「日常生活支援事業」や「成年後見制度」を学ぶ機会を設け、冊子を置いて、いつも見えるように心掛けている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、分りやすく説明し、本人様、ご家族様の不安を取り除く為、適時、質問や分からない所がないか声掛けを行っている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や日々の面会時に、ご意見や要望を真摯に受け止め、朝礼や申し送り時に職員に伝え、サービスの質の向上に役立っている。	利用者の意見は、普段の何気ない会話の中で発せられ、食に関することがほとんどである。家族の意見は、事業所に面会に来た際や、事業所から電話連絡を行った時に聴取している。実際の意見から、食事に日本の伝統的な食文化を取り入れたり、季節を感じられるおやつを提供している。	

自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行われるスタッフ会議に本社長・統括施設長が出席し、意見や提案を聞き、今後の運営に役立たせるように努めている。管理者は、職員の意見や要望を聞き、何でも話しやすい関係作りに努めている。	本社長と統括施設長は、定期的に事業所を訪問しており、職員は直接意見を述べる機会がある。管理者は、全職員に平等に接することで、職員が意見をしやすくなるように工夫している。職員から、利用者の安全確保に係る業務改善を提案し反映した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員の日々の努力や行動を把握し、賞与に反映させ、職員の意識向上に寄与している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は一人一人の力量を把握し、内外の研修を受講して、スキルアップ出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他の福祉施設との交流を活用し、お互いのサービスの質の向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前面談で、ご本人の思いをお聴きする・ご家族からも情報をお聞きするようになっている。家に近い環境で安心して過ごして頂ける様に務めている。		

自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族様から不安な事、要望等には、しっかり向き合い、一緒に考えて、面会時や電話連絡でお伝えする事で信頼関係を築いている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人様とご家族様のその時の思いに現行のサービスで可能か見極めて速やかに対応するようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日常生活を共に過ごし、お互いに協力しあい、支えあう事で共に暮らしをしていると認識しあえる関係作りに努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>日頃の様子をご家族様にお伝えし、共有する事で職員と共に支えている意識を持って頂けるように努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。</p>	<p>コロナ禍で外出や面会に制限があるが、友人や他県にいる親戚に方でも窓越しですが面会を行って頂いて、関係が途切れないうに支援に務めている。</p>	<p>面会の制限や緩和については、本社が感染状況に応じて判断している。家族や利用開始前に親しく交流のあった方達とは、一定の制限を設けて窓越しで面会を行っている。家族からの電話を取り次いだり、利用者を担当する職員から利用者家族に年賀状を送るなどの支援を継続している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	周りの方と何気ない世間話、生活動作、レクリエーションを共有し、共に楽しんだり支えあい良い関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設へ移動された方に関しても、相談や要望があれば情報提供し、支援させて頂いている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向の確認を行ったり、普段の会話の中から真意を把握するようにしている。また、意思疎通の困難な方にはご家族などから頂いた情報を元に、職員間でカンファレンスなどを行って情報を共有し、ご本人本位の支援ができるようにしている。	利用者の思いは、普段の関わりの中で職員が聞き取り、介護職員から看護師や計画作成担当者に伝えられる。意向の表出が困難な場合は、日々の職員の意見を参考にしながら、体調や食事の摂取量、顔色や表情、様子なども含めて全職員の意見を取り入れて方針を決めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご本人やご家族の要望や思いを傾聴し、馴染みの生活を考慮し環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人の現状を十分に把握した中で、プランを計画実施し、ご本人様に合った生活を送っていただいている。また、状況の変化等記録に残して職員全員で把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>立案時には、ご本人やご家族の意向などをお聞きして、現状に即したプランを作成している。毎日の様子をモニタリングに反映できるようにかかわっており、モニタリングは次回のケアプランに生かしている。</p>	<p>介護職員が毎日、計画の実施状況を確認し、年4回、3ヶ月毎に計画を見直す際に評価を行っている。家族の要望は面会時に確認し、計画作成担当者が職員の意見をひとりずつ聞き取り、看護師の意見を取り入れて計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプラン実施記録用紙を作成して日々の様子や気づきなどを記入するとともに、プラン立案やモニタリングに役立っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>コロナ禍で、必要な受診の付き添いなどの支援は行っているが、その他の支援は出来ていない。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍で、地域資源の活用はできていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご家族やご本人が希望される医療機関への受診・往診を行ってもらっている。看護師による医療連携も行われており、適切な治療が受けられるように支援している。</p>	<p>利用開始時に利用者、家族へ協力医療機関について説明を行い、利用開始後は希望した医師の診療を受けている。訪問診療のない病院への受診は、家族に協力を依頼している。普段の利用者の様子や、体温、血圧などの情報提供を行い適切な医療が受けられるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b>  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご家族やご本人が希望される医療機関への受診・往診を行ってもらっている。看護師による医療連携も行われており、適切な治療が受けられるように支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b>  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された場合は、ホームでの生活・医療等の情報提供を必ず行い、継続できることはお願いしている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b>  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時には、重度化についての説明を行い、必要時にはご利用者様の容態を考慮した上で、ご家族様・主治医・職員で話し合いを重ね、今後の方針を決めていくことにしている。ご家族の意向に沿ったケアを心がけている。また、看取りについてもしっかりと経過報告を行いながら実施している。	重度化した場合や、終末期の在り方について利用開始時に説明を行い、利用者の状態に応じて家族の意向を取り入れながら会議で方針を協議し、伝達と共有を行っている。コロナ禍の影響を受け、面会に制限を設けているが、可能な限り利用者と家族が一緒に過ごせるように工夫している。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b>  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	契約時には、重度化についての説明を行い、必要時にはご利用者様の容態を考慮した上で、ご家族様・主治医・職員で話し合いを重ね、今後の方針を決めていくことにしている。ご家族の意向に沿ったケアを心がけている。また、看取りについてもしっかりと経過報告を行いながら実施している。		
35	13	<b>○災害対策</b>  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	本社指導の下、夜勤勤務者には防火管理者講習の受講を義務付け意識の向上を図るとともに、毎月一回は日・夜勤帯でそれぞれ消防避難訓練を行っている。	毎月1回以上実施している避難訓練は、実施日時を調整することで、夜勤に配置している全職員が参加できるように工夫している。利用者の居室には、1着ずつ救命胴衣を用意しており、着脱の練習も行い水害に備えている。	



自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員間で注意しながら利用者様のプライバシーを大切にしている。特に排泄や入浴時の介助には注意を払い対応している。	排泄や、入浴を介助する際は、必要以上の肌の露出を避け、羞恥心に配慮している。利用者の身体的な負担を軽減した介助方法の検討と実施、抵抗感を強く感じる日常生活の場面では、利用者が不快感を感じない方法を模索して誘うなど、人格の尊重に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	散歩や入浴時は思いや希望が出やすいので傾聴して自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	歩きたい人には、寄り添い散歩したり、家事等がお好きな方達には、洗濯物や食器洗い、料理の下ごしらえ等を一緒にさせて頂きます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服は職員と一緒に見ますが、基本は本人で選んで着て頂いている。難しい方は、季節に合わせた洋服を選ばせて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理や盛り付け等、一緒に行なえる事は一緒にして頂いている。お誕生日の方にはどんな物が食べたいか聞き取りをして提供している。	毎食の食事は、事業所で作っており、利用者は調理や盛り付けを職員と一緒にやっている。食事形態の変更や、好き嫌いにも対応し、ご飯だけではなくパンが食べられる日も設けている。行事食の提供により、季節を感じたり、好きな物をリクエストして食べる事もできる。	

自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	毎食の食事摂取量と水分摂取量を記録 し、十分な量が確保できているかど うか確認している。また、一人ひとりの 咀嚼・嚥下機能に合わせた食事形態や 食事時間など対応できるようにしてい る。食事の好き嫌いには対応し、出来 るだけ残されることの無いように工夫 している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本 人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後には口腔ケアを行い、口腔内の 清潔保持に努めている。また、毎週1 回は訪問歯科の訪問診療を受けられ、 口腔内のチェックを行っていただい ている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排尿チェック表を使用し排尿パターンを 知り、日中のトイレ誘導を行うことで バットの使用数を減らすように努力し ている。	ポータブルトイレを居室に設置し、利 用者の体調に合わせて共用トイレとポ ータブルトイレの使い分けができるよ うに工夫している。排泄介助に強い嫌 悪感を示す利用者へは、トイレ内の環 境を整備し一人で排泄や、汚れたりハ ビリパンツの交換ができるように支援 している。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝、ヨーグルトにオリーブオイルをま ぜたり、ホットミルクを提供してい る。散歩や体操の働きかけを行って おり、それでも出ない方には、医師・ 看護師に相談し下剤を検討をする。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合 わせて入浴を楽しめるように、職員 の都合で曜日や時間帯を決めてしま わずに、個々に応じた入浴の支援を している。	入浴は利用者様との会話をしながら 楽しんで頂いております。希望する タイミングでは、1番風呂を嫌う方 には、2番目にお声掛けをする等 して、気持ち良く入浴して頂ける ように支援しています。	寒がりな利用者には、あらかじめ浴 室を温めてから誘うように工夫して いる。入浴したくない意向が強い 利用者には、シャワー浴や足浴を提 案している。職員は、利用者が興味 を持ちそうな食事や誕生日などを話 題にして会話をすることで、入浴を 楽しめるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中はリビングで過ごされますが、体調や希望によっては、お昼寝をしています。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局から頂くお薬情報を各職員がいつでも確認できるようにしており、副作用等についても看護師より随時伝達があり理解に努めている。また、内服確認を確実にし、状態の変化等についても注意している。また、本人の状態により薬の形態も変更している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	体操・歌・計算ドリル・トランプ・パズル等、レクリエーションや家事の好きな方には、一緒に家事作業をして頂けるように働きかけています。皆で行う月行事も楽しんで頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い暖かい日には、苑外散歩をしており、春には桜を見て皆様に喜んで頂いている。病院受診をご家族様と一緒に出掛けて頂いている。	PCR検査を受ける等の条件付きで外泊が可能であるが、希望者がいないのが現状である。中庭の植物や野菜の世話をす為に出たり、天気が良い日には事業所敷地内の駐車場で車いすの利用者も外気浴を行ったり、公園に行く事もある。通院は、家族の協力を得て受診している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に出掛けられる時には、支払いをご自分で頂く様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の使用は自由に出来るようになっている。また、希望があれば手紙などのやり取りも出来るように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔をモットーにしている。不快な刺激を避けることが出来るように、光・臭いなど気をつけている。中庭には季節の草花を植え、皆様に観賞していただいている。季節に応じた設えも一緒に作成展示している。	週に3回清掃専門の職員を配置している。トイレの消毒や、共用部の清掃は、毎日実施している。食堂の明るさの感じ方は個別性が高く、レースカーテンを活用したり、食事時間を調整して配慮を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1人になりたい時は、自由に居室で過ごされたり、利用者同士の団欒には、席を近づけたり、ソファアーと一緒に座って頂いて、自由に動いて頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は自由に使用していただいている。入居前に使用しておられた家具などを持ってきていただき、小物などの飾りつけも以前と同じようにすることで、馴染みの空間を作り出している。	居室には、使い慣れたメイクボックスを置いたり、趣味の道具を持参し、制作した物を事業所で活用している。日常生活動作から予測される怪我を予防する為に、家具の一部に保護材を使用して、安全にも配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	カレンダーや時計などを置き、日付の確認・時間の確認は各自で行ってもらっている。トイレなど場所の確認も分かりやすく表示している。		

V アウトカム項目( さくらユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼にて理念を復唱し、覚えて貰い、日々の仕事に反映出来るようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	町内会に入っていて、慰霊祭やお祭り等に参加され、地域との交流を楽しんでおられたが、慰霊祭もコロナの感染予防のため職員のみで参加していて、お祭りは中止のお知らせが届いた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々が相談に来られると一つ一つお答えして、見学したい方には外から中庭に入って頂いて見て頂いている。今年はほのぼの苑全体で集中して相談や見学出来る期間を設ける事が多の方に認知症の人の理解や支援の方法をお伝えしていきたいです。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ過で運営推進会議は施設では行えていません。書面を通して苑の様子を地域の方やご家族様にお示しして、意見を聞かせて頂き、実践している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	コロナ過で運営推進会議は施設では行えていません。書面を通して苑の様子を地域包括支援センターの方々にお示しして、意見を聞かせて頂き、支援に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修は適時行い、禁止行為を職員に周知している。玄関の施錠は危険回避のため行っているが、外出は職員はご家族の付き添いにて行っている。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待の研修は適時行い、禁止行為をスタッフに周知している。虐待の芽チェックリストを使用して、虐待を見過ごさないように留意している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員研修会を行い、「日常生活支援事業」や「成年後見制度」を学ぶ機会を設け、冊子を置いて、いつも見えるように心掛けている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、分りやすく説明し、本人様、ご家族様の不安を取り除く為、適時、質問や分からない所がないか声掛けを行っている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や日々の面会時に、ご意見や要望を真摯に受け止め、朝礼や申し送り時に職員に伝え、サービスの質の向上に役立っている。		



自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行われるスタッフ会議に本社長・統括施設長が出席し、意見や提案を聞き、今後の運営に役立たせるように努めている。管理者は、職員の意見や要望を聞き、何でも話しやすい関係作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員の日々の努力や行動を把握し、賞与に反映させ、職員の意識向上に寄与している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は一人一人の力量を把握し、内外の研修を受講して、スキルアップ出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他の福祉施設との交流を活用し、お互いのサービスの質の向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前面談で、ご本人の思いをお聴きする・ご家族からも情報をお聞きするようになっている。家に近い環境で安心して過ごして頂ける様に務めている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族様から不安な事、要望等には、しっかり向き合い、一緒に考えて、面会時や電話連絡でお伝えする事で信頼関係を築いている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人様とご家族様のその時の思いに現行のサービスで可能か見極めて速やかに対応するようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日常生活を共に過ごし、お互いに協力しあい、支えあう事で共に暮らしをしていると認識しあえる関係作りに努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>日頃の様子をご家族様にお伝えし、共有する事で職員と共に支えている意識を持って頂けるように努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>コロナ禍で外出や面会に制限があるが、友人や他県にいる親戚に方でも窓越しですが面会を行って頂いて、関係が途切れないように支援に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	周りの方と何気ない世間話、生活動作、レクリエーションを共有し、共に楽しんだり支えあい良い関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設へ移動された方に関しても、相談や要望があれば情報提供し、支援させて頂いている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向の確認を行ったり、普段の会話の中から真意を把握するようにしている。また、意思疎通の困難な方にはご家族などから頂いた情報を元に、職員間でカンファレンスなどを行い情報を共有し、ご本人本位の支援ができるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご本人やご家族の要望や思いを傾聴し、馴染みの生活を考慮し環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人の現状を十分に把握した中で、プランを計画実施し、ご本人様に合った生活を送っていただいている。また、状況の変化等記録に残して職員全員で把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>立案時には、ご本人やご家族の意向などをお聞きして、現状に即したプランを作成している。毎日の様子をモニタリングに反映できるようにかかわっており、モニタリングは次回のケアプランに生かしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプラン実施記録用紙を作成して日々の様子や気づきなどを記入するとともに、プラン立案やモニタリングに役立っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>コロナ禍で、必要な受診の付き添いなどの支援は行っているが、その他の支援は出来ていない。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍で、地域資源の活用はできていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご家族やご本人が希望される医療機関への受診・往診を行ってもらっている。看護師による医療連携も行われており、適切な治療が受けられるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご家族やご本人が希望される医療機関への受診・往診を行ってもらっている。看護師による医療連携も行われており、適切な治療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された場合は、ホームでの生活・医療等の情報提供を必ず行い、継続できることはお願いしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時には、重度化についての説明を行い、必要時にはご利用者様の容態を考慮した上で、ご家族様・主治医・職員で話し合いを重ね、今後の方針を決めていくことにしている。ご家族の意向に沿ったケアを心がけている。また、看取りについてもしっかりと経過報告を行いながら実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	契約時には、重度化についての説明を行い、必要時にはご利用者様の容態を考慮した上で、ご家族様・主治医・職員で話し合いを重ね、今後の方針を決めていくことにしている。ご家族の意向に沿ったケアを心がけている。また、看取りについてもしっかりと経過報告を行いながら実施している。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	本社指導の下、夜勤勤務者には防火管理者講習の受講を義務付け意識の向上を図るとともに、毎月一回は日・夜勤帯でそれぞれ消防避難訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員間で注意しながら利用者様のプライバシーを大切にしている。特に排泄や入浴時の介助には注意を払い対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	散歩や入浴は思いや希望が出やすいので傾聴して自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	歩きたい人には、寄り添い散歩したり、家事等がお好きな方達には、洗濯物や食器洗い、料理の下ごしらえ等を一緒にさせて頂きます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服は職員と一緒に見ますが、基本は本人で選んで着て頂いている。難しい方は、季節に合わせた洋服を選ばせて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理や盛り付け等、一緒に行なえる事は一緒にして頂いている。お誕生日の方にはどんな物が食べたいか聞き取りをして提供している。		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食の食事摂取量と水分摂取量を記録し、十分な量が確保できているかどうか確認している。また、一人ひとりの咀嚼・嚥下機能に合わせた食事形態や食事時間など対応できるようにしている。食事の好き嫌いには対応し、出来るだけ残されることの無いように工夫している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後には口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、毎週1回は訪問歯科の訪問診療を受けられ、口腔内のチェックを行っていただいている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排尿チェック表を使用し排尿パターンを知り、日中のトイレ誘導を行うことでパットの使用数を減らすように努力している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>朝、ヨーグルトにオリーブオイルをまぜたり、ホットミルクを提供している。散歩や体操の働きかけを行っており、それでも出ない方には、医師・看護師に相談し下剤を検討をする。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴は利用者様との会話をしながら楽しんで頂いております。希望するタイミングでは、1番風呂を嫌う方には、2番目にお声掛けをする等して、気持ち良く入浴して頂けるように支援しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中はリビングで過ごされますが、体調や希望によっては、お昼寝をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局から頂くお薬情報を各職員がいつでも確認できるようにしており、副作用等についても看護師より随時伝達があり理解に努めている。また、内服確認を確実にし、状態の変化等についても注意している。また、本人の状態により薬の形態も変更している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	体操・歌・計算ドリル・トランプ・パズル等、レクリエーションや家事の好きな方には、一緒に家事作業をして頂けるように働きかけています。皆で行う月行事も楽しんで頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い暖かい日には、苑外散歩をしており、春には桜を見て皆様に喜んで頂いている。病院受診をご家族様と一緒に出掛けて頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に出掛けられる時には、支払いをご自分で頂く様に努めている。		



自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の使用は自由に出来るようになっている。また、希望があれば手紙などのやり取りも出来るように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔をモットーにしている。不快な刺激を避けることが出来るように、光・臭いなど気をつけている。中庭には季節の草花を植え、皆様に観賞していただいている。季節に応じた設えも一緒に作成展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1人になりたい時は、自由に居室で過ごされたり、利用者同士の団欒には、席を近づけたり、ソファーと一緒に座って頂いて、自由に動いて頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は自由に使用していただいている。入居前に使用しておられた家具などを持ってきていただき、小物などの飾りつけも以前と同じようにすることで、馴染みの空間を作り出している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	カレンダーや時計などを置き、日付の確認・時間の確認は各自で行ってもらっている。トイレなど場所の確認も分かりやすく表示している。		

V アウトカム項目（ もみじユニット ） ← 左記（ ）内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑江波気象台入口

作成日 令和5年3月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議の資料での、町内会・地域包括・ご家族様等へのアピール不足。	防災訓練や研修・勉強会等を行っている事をお伝えする。	防災訓練については、文書と写真を添付しお伝えする。	半年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。